



地域日本語支援ニュース こだま 第 248 号

2014.1.23



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■地域の活動から■

母語を育て、母国の文化を伝える

～子どものポルトガル語講座—プロジェクトサシペレレ～

可児市多文化共生センターフレビアポルトガル語教師

西口 マリアアンジェラ

2■AJALT 公開講座のおしらせ■

—日本語の文字の力を再考する—「漢字の姿は、心の姿」

講師 宇佐美志都氏 2月28日(金) 於:東京ウィメンズプラザ

=====

1■地域の活動から■

母語を育て、母国の文化を伝える

～子どものポルトガル語講座—プロジェクトサシペレレ～

可児市多文化共生センターフレビア

ポルトガル語教師 西口マリアアンジェラ

-----  
岐阜県可児市には、現在約 5,200 人の外国人が住んでいます。外国人居住者が最も多かった 2008 年には 7,200 人を超え、内 5,000 人近くがブラジル国籍の方々でした（現在は半減し、2,300 人余り）。ピーク時に比べ、外国人の数は減ってきているものの、永住者の割合は増えており、子どもの数も増えています。近年、公立学校に通う外国籍児童への母語支援の重要性が注目されるようになってきましたが、可児市国際交流協会では、2009 年度にいち早く子どもの

ポルトガル語講座を開講し、現在に至っています。その「サシペレレ」の活動について、同講座の教師である西口マリアアンジェラさんと、同協会事務局長の各務真弓さんにご紹介いただきます。

-----☆☆☆☆☆☆☆☆

#### ◆子どものポルトガル語講座「サシペレレ」の誕生◆

2009年から可児市多文化共生センターフレビア（以下フレビア）で、プロジェクトサシペレレは始まりました。そのプロジェクトで講師として教育者として、日本に住んでいる日系ブラジル人の子どもたちにポルトガル語を基礎から教えています。

私がフレビアでプライベートレッスンとして行っていたことが、可児市国際交流協会（以下協会）のプロジェクトとなり、講座として今も継続しています。

#### ◆講座の目的と内容◆

日本の社会で育つ日系ブラジル人の子どもたちのポルトガル語コミュニケーション能力の向上が目的で、基本的な書き方と読み方が理解できるように指導しています。

ブラジルの文化や社会、生活習慣も教えます。たとえば、ジンカーナ（レクレーション）。ブラジルのゲームや軽スポーツ、人形劇を行います。絵の展示や、防災訓練などを経験しながらいろいろな言葉を習い、意味が理解できるようにプログラムを組みます。

‘人間は母語を習得することで、文化や習慣を習得する’と読んだことがあります。

#### ◆継続学習の難しさ◆

サシペレレは6クラスあり、週1回2時間半行っています。1つのクラスにも年齢差、レベル差があります。みな公立学校に通っているのも母語（ポルトガル語）が遅れている子もいて、母語では年齢とレベルにずれがあります。読む、書く、聴解、読解、語彙を増やすために繰り返しの学習が必要ですが、理解の早い子にはつまらないものになります。また、長文の理解のためには、辞

書を引かなければなりません、辞書の引き方も難しいし、文法的な理解も難しい。ポルトガル語で話し、簡単な文章も書けるけれど文法の間違が多い。公立学校での生活が長い子どもたちにとって、継続して学ぶことが難しくなります。

#### ◆家庭の役割◆

「家庭ではポルトガル語」という保護者の協力も重要です。教育以外に心配なのは、コストです。両親の負担は大きいです。たとえば、教材、月謝の費用や送迎などです。そして家庭でも子どもの成長に合わせ、宿題や読書もポルトガル語で保護者が一緒に取り組む必要があります。

#### ◆教師の役割◆

ブラジルの学校と同じ教材を利用してポルトガル語を教えます。ですが、クラス内でも個人差があり、まるで複式学級のようなです。そのため教師は、個々のレベルの把握をし、事前学習をし、教師自身も勉強を続けて教え方を工夫し、子どもたちのモチベーションを保つ必要があります。

#### ◆コーディネーターの役割◆

このプロジェクトのコーディネーターは、教室の準備、ブラジルの教育に関する情報提供、クラスわけなど教師をサポートします。ポルトガル語と日本語でレポートを書き、協会に報告もします。懇談会は、3ヵ月ごとにあり、子どもの様子や、テストの点数について両親に知らせます。年度ごとの学習評価もします。また、両親の悩みや質問や子どもの成長のアドバイスなどもします。私たちは、協力しあい子どもたちが母語をしっかり覚えるよう、意識的に文化を伝えることを続けています。

(原文はポルトガル語)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

～西口マリアさんとの出会い～

NPO 法人可児市国際交流協会  
事務局長 各務 眞弓

岐阜県可児市は、南米系日系人の多く住む集住都市のひとつです。私は、ブ

ラジル人学校と係わる中で、多くの子どもたちと出会い、母語の重要性を感じてきました。特に帰国する子どもたちの多くが母語消失または、ダブルリミテッド（編集部注：第一言語と第二言語のどちらの能力も十分に発達していない状態）が疑われ、帰国後の生活が心配されました。当時は、母語支援をなかなか理解してもらえませんでした。2009 年度に子どものポルトガル語教室を実施することになりました。昨年度からは、月謝収入のみで実施しています。継続していくのには、保護者の意識と協力が重要です、場所と予算と指導者の3つが必須条件です。

開講当時、西口マリアさんは、ブラジル人学校の教師を辞め、プライベートで子どもの指導をされていました。この熱心な教育者であり、ユニークで楽しい先生との出会いで、プロジェクトサシペレレが始まりました。このプロジェクトの教室名は、この教室の目的がポルトガル語とブラジルの文化の伝承ということもあり、ブラジルの子どもなら誰でも知っている馴染みやすいものということで、一本足のいたずら妖精「サシペレレ」に決めました。

マリア先生ご自身も勉強熱心で英語や日本語の勉強のみならず、東海大学とブラジلمトグロッソ大学が連携した遠隔教育者養成プログラムで5年間教育学を学び今年卒業されました。その間、さまざまな教育プログラムをサシペレレで実践してくれました。日本にいてもスキルアップしていこうという生き方は、キャリアモデルとして生かしていきたいです。

---